

## 見学会報告

「エネルギーの歴史と未来 ～初夏の道東を巡る、炭鉱採掘からIPP、DME開発まで～」

部門企画委員会幹事 天本 幹夫(日立)

去る7月8日(木)～9日(金)の2日間にわたり、20世紀のエネルギー供給を担った釧路コールマイン(旧太平洋炭鉱釧路鉱)の採炭現場、環境負荷の低いクリーンエネルギーとして注力されているDMEの実証プラントであるディーエムイー開発の100t/日DME実証プラントおよび日本製紙釧路工場IPP設備といった道東地区のエネルギー関連設備を見学した。

第1日目は、釧路空港集合の後チャーターバスで移動し、日本製紙釧路工場のIPP設備を見学した。電力自由化にとまなう北海道電力の募集に対して、道東地区におけるIPPとして応募、今年10月の営業運転開始を目指し連続運転中のプラントを見学した。また、動力・エネルギーシステム部門では触れる機会の少ない製紙工場に関する概略の説明を受けた。途中、釧路湿原に立ち寄って自然の雄大さを肌を感じ、宿泊先へ向かった。初日の宿泊先である釧路東急インでは、恒例の懇親会を催し部会員の親交をあたためた。

第2日目は、まず釧路コールマインへ向かい、釧路炭鉱の現状の説明をうけた後、釧路コールマイン殿のご厚意により用意していただいた作業着に着替え、ヘルメット、マスク等着用し、人車に乗って海面下約320mの採炭現場へと向かった。人車を降りた後、2km弱の坑道を徒歩で移動、ようやく採炭現場へ到着した。巨大なドラムカッターが石炭層を切り崩しながら移動していく様子を間近に見て圧倒された。その後再び徒歩で来た道を引き返し、人車に乗って地上へと戻り、お風呂をお借りして汗を流して一息ついた。坑道で拾った石炭をお土産として持ち帰った方もいた。

釧路市内で昼食を取った後、ディーエムイー開発の100t/日DME実証プラントへ向かった。DME合成プロセス、プロジェクト概要の説明を受けた後、運転中の実証プラントを見学した。運転中は立ち入り規制されるため、設備近くまで行くことは出来なかったが、順調に稼動している様子を見学し、無事今回の見学会を終了した。

今回は採炭現場見学時の人数制限のため募集人員定員は例年よりも少ない120名となったが、炭鉱に入るという貴重な体験ができ、懇親会での参加者の意見も概ね好評であり、エネルギーに関する会員の関心の高さが現れた見学会であった。



釧路コールマイン(奈良林部門長提供)